

## 川上ダム自然環境保全委員会 議事要旨

1 日 時：平成28年3月28日（月） 15：00～17：00

2 場 所：独立行政法人水資源機構川上ダム建設所 ふれあいホール

### 3 委 員

委員長 池淵周一 京都大学名誉教授

委 員 江崎保男 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科教授

海老瀬潜一 元摂南大学教授

角哲也 京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授

藤井伸二 人間環境大学人間環境学部人間環境学科准教授（欠席）

松井正文 京都大学名誉教授

森下郁子 （一社）淡水生物研究所所長

（五十音順）

### 4 議事要旨：

#### （1）会則の改定について

事務局より会則の改定案について説明を受け、改定案のとおり承認した。

#### （2）川上ダムにおける環境保全への取り組みについて

事務局より資料に基づき説明を受け、川上ダムにおける環境保全への取り組みの内容を確認した。指導・助言の内容は次のとおり。

○洪水時における水質調査については、水質の動向を確認するために、洪水の立ち上がり前からピークの後まで採水を行うとよい。

○採水したサンプルのうち、どれをどのように分析するかは、有識者の指導・助言を得ながら対応する必要がある。

○洪水時における上下流の水質調査結果を比較する際に、自然の影響以外の要因により値が変化している可能性が考えられるため、その原因を確認する必要がある。

- 工事が本格的になると、大量の土砂移動が発生し、植物に限らず動物も含めて、外来種が侵入する可能性があるため、早期に対策を講じる必要がある。
- 外来種が持ち込まれないように、一般市民への啓発活動を早期に進める必要がある。
- オオサンショウウオについて、遡上路的設置などの保全対策を迅速に進める必要がある。
- ダム下流河川のモニタリング調査については、既往の調査結果を十分に分析したうえで、ダム管理に役立つようにダム建設前のデータを取得する必要がある。
- 川上ダムの場合、近傍に周辺状況が類似するダムがあるため、調査結果の分析にあたっては、それらのダムのデータを参照しながら行うとよい。
- 調査を行うにあたっては、将来のダム管理を見据えて、土砂と栄養塩の関連性を含む有意義なデータを取得するように努める必要がある。

以上の指導・助言を踏まえ、事務局から説明のあった環境保全への取り組みを引き続き進めることを確認した。

以 上